

パキロビッド®パックとの併用薬物の相互作用に関する情報を入手できるホームページの紹介

- パキロビッド®パック薬物相互作用検索ツール
(ファイザー株式会社HP)
- パキロビッド相互作用チェックシート
(岡山市立市民病院HP)
- パキロビッド®パックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト
(国立国際医療研究センター病院HP)

パキロビッド®パック 薬物相互作用検索ツール

ファイザー株式会社HP

新型コロナウイルス『治療薬』医療従事者専用サイト
<https://www.covid19oralrx-hcp.jp>

パキロビッド®パック600/300
ニルマトレルビル錠/リトナビル錠



薬物相互作用検索ツール

本ツールは「パキロビッド®バック」及び「パキロビッド®バック600/300」の添付文書に記載の併用禁忌薬・併用注意薬を簡便に検索できるシステムです。

なお、「パキロビッド®バック」の処方には
事前に「パキロビッド®バック登録センター」への施設登録およびトレーニング動画の視聴が必要です。
また、処方の際には登録センター内にある「適格性情報チェックリスト」にて患者の服用薬剤をご確認ください。
*本ツールは疾病の診断、治療、予防を目的としていません。

他の薬剤との相互作用は、可能なすべての組み合わせについて検討されているわけではありません。
パキロビッド®は併用薬剤と相互作用を起こすことがあるため、服薬中のすべての薬剤を確認してください。
また、パキロビッド®で治療中に新たに他の薬剤を服用する場合、事前に相談するよう患者にご指導ください。

他の薬剤との相互作用は、可能なすべての組み合わせについて検討されているわけではありません。
パキロビッド®は併用薬剤と相互作用を起こすことがあるため、服薬中のすべての薬剤を確認してください。
また、パキロビッド®で治療中に新たに他の薬剤を服用する場合、事前に相談するよう患者にご指導ください。

以下の枠内に**医薬品（製品名/一般名）**または**キーワード**をご入力ください

製品名の表記は原則先発品の名称を表記していますが、全てを網羅しているわけではありません。合剤および後発品は一般名で検索してください。
また、パキロビッド®の添付文書にはHIVプロテアーゼ阻害薬など薬効群で表示されているものもあり、
添付文書内に一般名の記載がない場合は検索結果に表示されません。

併用禁忌薬

薬効分類	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗結核薬	リファブチン (ミコブチン)	不整脈、血液障害、血管攣縮等、これら薬剤による重篤な又は生命に危険を及ぼすような事象が起こるおそれがあるので併用しないこと。	本剤のチトクロームP450に対する競合的阻害作用により、併用した場合これらの薬剤の血中濃度が大幅に上昇することが予測される。

他の薬剤との相互作用は、可能なすべての組み合わせについて検討されているわけではありません。
パキロビッド®は併用薬剤と相互作用を起こすことがあるため、服薬中のすべての薬剤を確認してください。
また、パキロビッド®で治療中に新たに他の薬剤を服用する場合、事前に相談するよう患者にご指導ください。

以下の枠内に医薬品（製品名/一般名）またはキーワードをご入力ください

製品名の表記は原則先発品の名称を表記していますが、全てを網羅しているわけではありません。合剤および後発品は一般名で検索してください。
また、パキロビッド®の添付文書にはHIVプロテアーゼ阻害薬など薬効群で表示されているものもあり、
添付文書内に一般名の記載がない場合は検索結果に表示されません。

併用注意薬

薬物分類	薬剤名等	臨床症状・処置方法	機序・危険因子
降圧薬	カルシウム拮抗薬（アムロジピンベシル酸塩、 ニフェジピン	これら薬剤の血中濃度が上昇するおそれがある。これら薬剤の副作用が発現しやすくなるおそれがあるため、十分な観察を行いながら 併用する場合は、	本剤がCYP3Aにおけるこれら薬剤の代謝を競合的に阻害するためと考えられている。

併用注意薬

薬物分類	薬剤名等	臨床症状・処置方法	機序・危険因子
降圧薬	カルシウム拮抗薬（アムロジピンベシル酸塩、ジルチアゼム塩酸塩、フェロジピン（アムロジピン、ノルバスク、ヘルベッサー、スプレンジール） ニカルジピン塩酸塩、ニフェジピン、ニトレンジピン、ニルバジピン）（ペルジピン、アダラート、バイロテンシン、ニバジール）	これら薬剤の血中濃度が上昇するおそれがある。これら薬剤の副作用が発現しやすくなるおそれがあるため、十分な観察を行いながら慎重に投与し、必要に応じて減量や休薬等の適切な措置を講ずること。	本剤がCYP3Aにおけるこれら薬剤の代謝を競合的に阻害するためと考えられている。

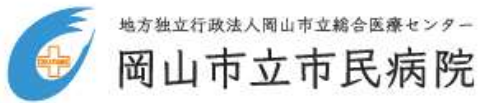
パキロビッド相互作用チェックシートの 医療者向け公開について

岡山市立市民病院HP

<https://okayama-gmc.or.jp/shimin>

okayama-gmc.or.jp/shimin/

https://okayama-gmc.or.jp/shimin/



文字サイズ | 大 | 標準 |

背景色



Google 提供

お問い合わせ >

採用情報 >

サイトマップ >

086-737-3000

- HOME
- 当院について
- 患者さんへ
- 診療科・部門
- イベント・教室
- 医療機関の方へ
- アクセス



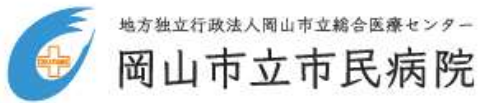


重要なお知らせ

⚠️ 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

2022/02/09 医療費後払いサービス開始について

2022/08/26 令和4年10月1日（土）より選定療養費の金額が変わります



文字サイズ | 大 | 標準 |

背景色 ▾



Google 提供 🔍

お問い合わせ >

採用情報 >

サイトマップ >

📞 086-737-3000

HOME

当院について

患者さんへ

診療科・部門

イベント・教室

医療機関の方へ

アクセス

Home > 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応

- ▼ 受診をご希望の方へ
- ▼ 面会・お見舞いをご希望の方へ
- ▼ PCR検査をご希望の方へ
- ▼ 新型コロナワクチン接種について
- ▼ 当院の新型コロナウイルス感染症への取り組みのご紹介
- ▼ 各種イベントや教室について
- ▼ 医療者の皆様へ

当院では、通常診療に加えて新型コロナウイルス感染症患者さん（疑い含む）の対応も行っています。

通常の受診でお越しいただく患者さんや入院されている患者さんの治療に影響が出ないように、徹底した院内感染防止対策を実施しています。ご来院の皆様にはご不便をおかけする部分もございますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

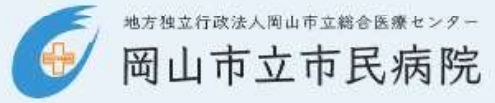
受診をご希望の方へ

医療者の皆様へ

COVID-19の経口抗ウイルス薬として国内で使用可能な「ニルマトレルビル／リトナビル (通称：パキロピッド)」について、各医療機関での使用検討の一助としていただけるように、併用する薬剤の相互作用について、当院で利用しているチェックシートを医療関係者向けの資料として公開することとしました。必要に応じてご参照ください。

[パキロピッド相互作用チェックシートの医療者向け公開について](#)

[HOME](#) | [当院について](#) | [患者さんへ](#) | [診療科・部門](#) | [イベント・教室](#) | [医療機関の方へ](#) | [アクセス](#) | [個人情報保護方針](#) | [お問い合わせ](#) | [取材について](#) | [サイトマップ](#)



〒700-8557 岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号
TEL : 086-737-3000 (代表)
FAX : 086-737-3019 (代表)


※患者さんをご紹介いただく場合は[コチラ](#)



パキロビッド相互作用チェックシートの医療者向け公開について

令和4年2月10日に特例承認された「ニルマトレルビル／リトナビル（通称：パキロビッド）」は、COVID-19の経口抗ウイルス薬として国内で使用可能です。

各医療機関での使用検討の一助としていただけるように、併用する薬剤の相互作用について、当院で利用しているチェックシートを医療関係者向けの資料として公開することとしましたので、必要に応じてご参照ください。

公開資料名	 パキロビッド相互作用チェックシート  パキロビッド相互作用チェックシートの使い方
公開対象	医療関係者
資料の利用範囲	<ul style="list-style-type: none">医療機関での利用・院内配布：可二次利用：不可改変：不可
免責事項	<p>以下、ご承諾の上でご利用ください。</p> <ul style="list-style-type: none">本シートは、添付文書上の禁忌および慎重投与薬を成分名と商品名を並列表記し、AUC上昇に関する情報があるものは併記をしています。なお、AUC上昇に関する情報はノーピア錠（リトナビル）の添付文書を参考としています。本シートは2022年9月26日時点の薬剤情報を反映しています。商品名については外用剤・配合剤・後発品など網羅できていないものもあるため、あくまでも参考情報としての利用にとどめていただき、実際の処方については各医師の責任下で行ってください。

パキロビッド相互作用チェックシートの医療者向け公開について

令和4年2月10日に特例承認された「ニルマトレルビル／リトナビル（通称：パキロビッド）」は、COVID-19の経口抗ウイルス薬として国内で使用可能です。

各医療機関での使用検討の一助としていただけるように、併用する薬剤の相互作用について、当院で利用しているチェックシートを医療関係者向けの資料として公開することとしましたので、必要に応じてご参照ください。

公開資料名	 パキロビッド相互作用チェックシート  パキロビッド相互作用チェックシートの使い方
公開対象	医療関係者
資料の利用範囲	<ul style="list-style-type: none">医療機関での利用・院内配布：可二次利用：不可改変：不可
免責事項	以下、ご承諾の上でご利用ください。 <ul style="list-style-type: none">本シートは、添付文書上の禁忌および慎重投与薬を成分名と商品名を並列表記し、AUC上昇に関する情報があるものは併記をしています。なお、AUC上昇に関する情報はノーピア錠（リトナビル）の添付文書を参考としています。本シートは2022年9月26日時点の薬剤情報を反映しています。商品名については外用剤・配合剤・後発品など網羅できていないものもあるため、あくまでも参考情報としての利用にとどめていただき、実際の処方については各医師の責任下で行ってください。

パキロビッド相互作用チェックシート(合剤・外用は成分名を必ず確認!!)

岡山市立市民病院 20230217

薬剤名: 商品名(一般名), 一般名(商品名)	薬効分類	併用薬増併用薬減
パキロビッド添付文書の禁忌(薬効別)		
パキロビッド添付文書の慎重投与(薬効別)		
St. John's Wort, Hypericum perforatum等の記載のある抗うつ作用などを果たした健康食品(サプリメント)	健康食品(サプリメント)	パキロビッド↓
アーリーダ(アパルタミド)	抗悪性腫瘍薬	パキロビッド↓
アイミクス(イルベサルタン・アムロジピン)	降圧薬	AUC03倍超↑
アジルサルタン・アムロジピン(ザクラス, ズルム口)	降圧薬	AUC03倍超↑
アストモリジン(プロキシフィリン・エフェドリン・フェニバルピタール)	気管支拡張薬	パキロビッド↓
アゼルニジピン(カルブロック)	降圧薬	AUC05倍超↑
アゼルニジピン・オルメサルタン(オルアゼ, レザルタス)	降圧薬	AUC05倍超↑
アタザナビル(レイアタツ)	抗HIV薬	↑
アダラート(ニフェジピン)	降圧薬	AUC03倍超↑
アデムバス(リオシグアト)	肺高血圧症治療薬	↑
アピタマ(サリドニール・アピタマ)	喘息治療配合	↑

薬剤名: 商品名(一般名), 一般名(商品名)	薬効分類	併用薬増併用薬減
パキロビッド添付文書の禁忌(薬効別)		
パキロビッド添付文書の慎重投与(薬効別)		
エストラジオール(エストラーナ, ウェルナール, エストロジェル, ルテス, プリモジアン, メノイド, ジュリナ, ベラニン, プロギノン, ディビゲル, ダイホルモン等)	女性ホルモン製剤	↓
エチニルエストラジオール(アンジュ, ラベルフィーユ, マーベロン, ヤーズ, トリキュラー, プロセキソール, ファボワール, ルナベル, プラノパール, シンフェーズ, ジェミーナ, フリウエル等)	経口避妊薬	↓
エペロリムス(アフィニトール)	抗悪性腫瘍薬	AUC05倍超↑
エペロリムス(サーティカン)	免疫抑制薬	AUC05倍超↑
エリスロシン(エリスロマイシン)	抗菌薬	AUC03倍超↑
エリスロマイシン(エリスロシン)	抗菌薬	AUC03倍超↑
エルゴタミン/無水カフェイン/イソプロピルアンチピリン(クリアミン)	頭痛治療薬	↑
エルゴメトリン(成分商品同一名)	子宮収縮薬	↑
エトレリブタン(レルパックス)	片頭痛治療薬	AUC05倍超↑
オキシコドン(オキノーム, オキファスト, オキシコドン)	麻薬性鎮痛薬	↑
オキニール(オキニール)	麻薬性鎮痛薬	↑

薬剤名: 商品名(一般名), 一般名(商品名)	薬効分類	併用薬増併用薬減
パキロビッド添付文書の禁忌(薬効別)		
パキロビッド添付文書の慎重投与(薬効別)		
シーエルセントリ(マラビロク)	抗HIV薬	AUC05倍超↑
ジェミーナ(エチニルエストラジオール)	経口避妊薬	↓
ジオトリフ(アファチニブ)	抗悪性腫瘍薬	↑
シクロスポリン(ネオラル・サンディミュン)	免疫抑制薬	AUC03倍超↑
ジゴキシン(ジゴシン, ハーフジゴキシン)	強心薬	↑
ジゴキシン(ジゴキシン)	強心薬	↑
ジドブジン(レトロビル)	抗HIV薬	↑
ジドブジン・ラミブジン(コンビル)	抗HIV薬	↑
ジフルカン(フルコナゾール)	抗真菌薬	↑
シムピコート(ブデソニド)	ステロイド(吸入)	AUC05倍超↑
シムピコート(ブデソニド)	高脂血症治療	↑

「パキロビッド®パックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト」の公開について

国立国際医療研究センター病院HP

<https://www.hosp.ncgm.go.jp>

外来受付時間

紹介状をお持ちの方

午前8時30分～午前11時
※一部診療科を除く

休日診療日

2024年1月8日
※休日診療日とは
国民の祝日及び振替休日に外来診療等を行うことをいいます。但し、通常の診療日とは異なり、行う診療内容には制限がございます。(受診日の一か月ほど前になりましたら、あらかじめご確認ください)

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始12月29日～1月3日

診療の予約または変更はこちら

☎ 03-3202-7494/7495



病院に受診、面会の際にはマスク着用をお願いします

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始12月29日～1月3日

診療の予約または変更はこちら

☎03-3202-7494/7495

病院に受診、面会の際にはマスク着用をお願いします

新型コロナウイルス感染症に関する当院の取り組み

臨床研修
専門研修
学生実習

人間ドック

外国人の方へ

特別個室病棟の
ご案内

高度生殖医療

先進医療

皆さまへのお知らせ

イベントのお知らせ

職員募集のお知らせ

一覧

- 2023年3月2日 2023年3月13日以降も院内ではマスクの着用をお願いいたします
- 2023年2月13日 面会制限緩和と入院患者さんの荷物お預かりについて（2月14日から）
- 2023年3月8日 【人間ドック】 予約状況を更新しました。
- 2023年2月27日 **パキロビッド®バックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト**の改訂4版を公開しました

- ▶がん相談支援センター
- ▶治験について
- ▶市民公開講座/疾患トピックス



「パキロビッド[®]パックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト」の公開について

国立国際医療研究センター病院 薬剤部
2022年2月10日初版
2023年2月27日改訂4版

パキロビッド[®]パックは、ブースターとして各種薬物代謝酵素や薬物トランスポーターの強力な阻害作用を有するリトナビルを含有しているため、併用する薬剤によってはその濃度を上昇させ、重大な副作用の発現が高まる可能性があります。そこで、国立国際医療研究センター（当院）では、薬剤部、国際感染症センターおよびエイズ治療・研究開発センターにおいて、添付文書情報のみならず、広く国内外の資料を基に「併用に慎重になるべき薬剤リスト」を作成しました（※改訂4版は一般薬と腫瘍用薬に分けて作成しています）。

パキロビッドパックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト (一般薬編)

国立国際医療研究センター病院 薬剤部/DCC/ACC 2023.2.27現在

※「禁忌」はパキロビッドパックの添付文書上禁忌、「禁忌相当」は、パキロビッドパックの添付文書上禁忌ではないが、海外資料での禁忌相当の記載がある薬剤という位置づけである。

一般名 (和名)	商品名	総合判定	相互作用	備考
アゼルニジピン	カルブロック、レザルタス配合	禁忌	↑ アゼルニジピン	
アトルバスタチンカルシウム水和物	リビートル、アトーゼット配合、アマルエット配合、カデュエット配合	休薬すれば投与可	↑ アトルバスタチン	・休薬⇒パキロビッド最終投与から3日後に再開
アピキサバン	エリキュース	用量調整すれば併用可	↑ アピキサバン	(心房細動) ・1回5mgで使用⇒1回2.5mg減量し併用可 ・1回2.5mgで使用⇒1回2.5mgで継続可 (PE/DVT) ・高リスク：低分子ヘパリンに変更 ・低リスク：アスピリンに切り換え ⇒パキロビッドの最終投与から3日後に常用量へ
アミオダロン塩酸塩	アンカロン	禁忌	↑ アミオダロン	
アリスキレンフマル酸塩	ラジレス	休薬すれば投与可	↑ アリスキレン	・休薬 (再開時期の推奨はなし)
アリピプラゾール	エビリファイ	用量調整すれば併用可	↑ アリピプラゾール	・半量に減量⇒パキロビッド最終投与から3日後に常用量へ
アルブラゾラム	ソラナックス、コンスタン	用量調整すれば併用可	↑ アルブラゾラム	・低用量で継続し副作用モニタリング ⇒パキロビッド最終投与から3日後に常用量へ
アンピロキシカム	フルカム	禁忌	↑ ピロキシカム	
イトラコナゾール	イトリゾール	用量調整すれば併用可	↑ ニルマトレルビル ↑ イトラコナゾール	・Max200mg/dayとして副作用モニタリング ⇒パキロビッド最終投与から3日後に常用量へ
イブラジン塩酸塩	コララン	禁忌	↑ イブラジン	

パキロビッドパックとの併用に慎重になるべき薬剤リスト（腫瘍用薬編）

国立国際医療研究センター病院 薬剤部/DCC/ACC 2023.2.27現在

※「禁忌」はパキロビッドパックの添付文書上禁忌、「禁忌相当」は、パキロビッドパックの添付文書上禁忌ではないが、海外資料での禁忌相当の記載がある薬剤という位置づけである。

※※下記腫瘍用薬の継続や中止の判断は、がん治療の主治医への確認とそこでの指示が優先される。よって下記はあくまで主治医との議論の題材もしくは確認や連絡が取れない際の参考資料である。

一般名（和名）	商品名	総合判定	相互作用	備考
アカラブルチニブ	カルケンス	休薬すれば投与可	↑アカラブルチニブ	・休薬⇒休薬から24時間後にパキロビッドを開始 ・パキロビッドの最終投与から3日後に再開
アキシチニブ	インライタ	休薬又は用量調整すれば投与可	↑アキシチニブ	・休薬⇒パキロビッドの最終投与から3日後に再開 (併用する場合はアキシチニブを50%減量し、パキロビッド終了3日後に減量前の投与量を再開)
アバルタミド	ア－リーダー	禁忌	↑アバルタミド ↓ニルマトレルビル/リトナビル	・過去14日以内の服用時も含めて併用禁忌扱い
アヘマシクリブ	ページニオ	休薬又は用量調整すれば投与可	↑アヘマシクリブ	・休薬⇒パキロビッドの最終投与から3日後に再開 (併用する場合、過去に毒性による減量がなかった患者では、毒性を注意深くモニタリングしながら1日1回50mgへの減量を検討)
イブルチニブ	イムブルピカ	禁忌相当	↑イブルチニブ	・代替のCOVID-19治療薬を考慮 (投与中止から12時間後にパキロビッドを開始、パキロビッドの最終投与から3日後に再開、やむを得ず併用の際にはイブルチニブを140mg/日に減量しモニタリングという見解もあり)
イマチニブメシル酸塩	グリベック	休薬又は副作用モニタリングすれば併用可	↑イマチニブメシル酸塩	・休薬⇒パキロビッドの最終投与から3日後に再開 (併用する場合はイマチニブ関連の毒性をモニタリングし、必要に応じて中断または減量を検討)
エトボシド	ヘブシド ラストット	休薬又は副作用モニタリングすれば併用可	↑エトボシド	・休薬⇒パキロビッドの最終投与から3日後に再開 (併用する場合はエトボシドの毒性をモニタリングし必要に応じて治療の中断または減量を検討) ・休薬⇒最終投与から3日後に再開